

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970800060		
法人名	社会福祉法人 尽心会		
事業所名	ゆうゆうホーム		
所在地	高知県土佐清水市浜町1-23		
自己評価作成日	平成25年4月30日	評価結果 市町村受理日	平成25年7月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者を中心とした生活は当然の事ですが、皆様が望む生活は様々であり、その希望に少しでも沿えるような支援を目指しています。
ご本人の希望はもちろん、ご家族とも十分に話し合い、安全性を考慮したうえで、個別での支援や、また皆で共に出来る支援などを行いたいと考えています。
また、入居者同士の関係も大事に考え、職員が間に入るだけでなく、入居者同士での助け合いなども自然に出来るよう、見守ることも大切に考えております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JgvosyoCd=3970800060-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成25年6月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は港に近い市街地にあり、周辺には保育所、地区の集会所、地域包括支援センター等がある。今年度は地区全体で津波を想定した避難訓練が実施され、それに参加し避難方法、避難経路、避難場所等が確定されている。一人ひとりの利用者がこれまで培ってきた家族、ふる里、知人、商店等との関係が途切れないよう、また、地域に根差した暮らしが継続できるよう積極的に支援している。今年度は全職員で話し合いを重ねて新たな理念を作成し、利用者との1対1になれる機会を大切にして関わることで、利用者から厳しい言葉が聞かれた時は真摯に向き合い傾聴すること、状況に応じた工夫により利用者の意思を把握して対応することなどにチーム一丸となって取り組み、新たな理念の実現を目指すことにしている。日々の暮らしでは、毎日入浴できる体制を整え、食事は毎食4品の副食作りを開設から12年余り継続している。今後も、事業所で居宅と同じような暮らしが継続できるよう、新たな理念とともに歩むことが期待できる事業所である。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者、職員心得(運営理念)にもあげられているように、生活を共有することを心掛けています。職員皆で、どのようなケアをしたいのか、など話し合い共有しています。日常のコミュニケーションの中で、職員の方が気付かされることもあり、その時々で皆と意見交換などしています。	開設以来の10項目の理念を念頭に置いて取り組んでいる。また、最近、全職員で協議を重ね「尊厳、笑顔、思いやり」という新たな理念を作成し、一人ひとりの利用者の尊厳について話し合いながらチームケアにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同地区の区長さんや、地域の方などにも運営推進会議に参加していただいたり、地域の行事に声をかけて頂き参加することもあります。逆に、当施設のイベントなどにもご招待するなど交流をしながら、入居者や職員を見知っていただいています。	地区会に加入し、地区の防災訓練や敬老会、盆踊り、保育園の運動会等に参加すると共に、カラオケ店利用時の写真を店内に掲示させてもらう等の活動もしている。また、事業所の行事は地域住民と一緒に楽しむことで、日常的な交流につなげている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で、当施設の取り組みや、認知症というものについてなど、話し合い理解していただいています。活動としては、近所の散歩時などに、気が付けば、ごみを拾うなど心掛けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容や意見等は定例の職員会で検討し、改善する必要がある場合には、皆で話し合い取り組んでいます。	会議は2カ月毎に開催し、利用者の状況や運営内容、評価結果等について報告し、参加委員からは例えば介護食のメニューや家具の転倒防止策等の提案があり、運営に反映している。会議録は分かりやすく記載し、委員や家族に配付している。	評価に基づく目標達成計画の取り組みや結果についても報告して評価を行い、評価→目標立案→実行→評価をひとつのサイクルとして次年度につなげるよう、運営推進会議を活用して取り組むことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に一度、運営推進会議を行い、参加して頂いています。意見や助言、時には相談させて頂いています。また、不明な点・質問等あれば、随時ご相談させていただいています。	運営推進会議を通じて事業所の取り組みを報告したり、制度に関する通達内容や書類の書き方等を市担当者に随時相談し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会等にも参加し、また全職員で共有し、身体拘束をしないケアに取り組んでおります。玄関の出入りが分かるようセンサーを設置し、夜間の防犯目的以外の施錠はしていません。	外部研修報告書をもとに全職員に周知するなど、身体拘束に該当する行為やその弊害への理解を進めるとともに、日々の会話における行動制限等についても注意し合っている。利用者の外出傾向や情緒不安定時等の原因を把握して対応するように努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等へは職員が交代で参加し、職員会での研修報告の場で内容を共有し理解できるよう、話し合い・意見交換など行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等へ参加し、勉強しています。現在まで相談ケースなどは出てきていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に本人、家族に対して説明を行い、理解と納得を得ています。また、入居後も、不安・疑問等が生じた場合には、その都度対応して安心して頂けるよう努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や支払い時での会話の中で意見を聞かせてもらう事が一番多いです。また、運営推進会議に参加された方からはその場で聞かせてもらうこともあります。意見を受けた職員は、管理者・職員全体・法人本部等に伝え、話し合い、必要なら改善のための対策をとっています。	利用者の意見、要望は随時間いて要望に沿うように調整を図りながら対応している。家族については、面会や電話時に意識して聞くようにしているが、家族同士の話し合いはできていない。	事業所だよりの一角に相談窓口を分かりやすく明示したり、家族同士の話し合いを少人数の参加でも始めてみる等、運営推進会議も利用して家族の意見や希望をより多く聞く機会を設ける取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員会を開催し、意見や要望等を聞くようにしています。また、日常生活の中で些細なことでも、その都度聞き、必要であれば話し合うようにしています。	毎月の職員会やケアの場面で職員の意見を聞いており、地域の商店での買い物の提案や住民を招待するイベントの企画等を運営に反映させた事例がある。入居希望者には事前に見学してもらい、職員と話し合って受け入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員からの意見や要望などはいつでも管理者が聞いたり、直接法人法部へ言える環境です。また、定期職員会に法人本部からも参加してもらい、直接要望等伝えていきます。代表者も現状把握を心掛けており、出来る限りの対処に努めてくれると思っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外部での研修会への参加が出来るようにしています。そのうち法人内での勉強会等は希望者はもちろん、新人職員など経験の浅い職員などは積極的に参加しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3か月に一度、同市内でのGH連絡会を開催しております。各事業所での取り組みや問題点など共有、解決できるよう取り組んでおります。他にも、利用者・職員皆が参加しての運動会や花見など開催しており、これからも多くのイベントを開催する予定としています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前は必ず面談を数回に分けて行います。また、入居後には日常生活の中での聞き取りや個別の面談ができるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所された家族の方とは、少しの時間でも職員と話しが出来るよう心掛けています。近隣でも来られない事情のある家族は訪問したり、遠方の家族などには電話などでの対応をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で本人と家族の要望や状態の把握に努め、必要としている支援や対応の把握に努めています。入居後も変化などないか観察し、都度対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者、職員心得(運営理念)にもあげられているように、生活を共有することを心掛けています。職員が一方的にならず、利用者様の気持ちを考え、行動するよう心掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には居室でゆっくり過ごして頂いたり、買い物や外出、また外泊など家族と共に過ごせる時間も大切に考えています。行事のたびに声をかけ、参加をお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別で外出など出来る方は、自由に行けるようになっていきます。その他の方は、不定期ではあるが、個別外出など行い、希望に添って、地元や馴染みの場所、近所の方に会いに行かれたり、交流を行っています。	利用者の馴染みの人や場所の情報を把握し、喫茶店や量販店の利用、知人宅やふる里訪問などの支援を行っている。また、家族の協力を得て理美容院、墓参り、親せきへの訪問、外食等に出かけ、これまでの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自ら積極的に関わっていくことがない方もおられるが、職員が間に入ったり、また他の利用者様が先に声をかけてくれたりする事もあります。お互いに心配し助けあったり、気の合う方もおられ、全体的になじみの関係はできているように思われます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何年も前に退所された方の家族が現在でも度々差し入れをしてくれます。町で会った時にも気軽に声をかけてくださり、近況報告などして下さる方もおられます。相談等あれば、出来るだけ支援していきたいと考えております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で聞き取れる方には常に聞くようにしています。意志表示が困難な方についても日常の行動や表情の観察をし、些細な変化にも対処できるよう努めています。また、家族からの情報も重要で、どんな小さな情報でも頂いています。利用者様本人の生活を支えていけるよう考え、努めていきます。	利用者に常に問いかけることで意向の把握に努めている。意思表示が困難な利用者には表情や行動、些細な変化等から推察したり家族から聞いて利用者本位に取り組んでいる。情緒不安定時には、本人の意思を把握するべく、担当職員が入れ替わる等の工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族、関係機関等より生活歴などの情報収集を行い、これまでの生活環境や希望などに少しでも添えることが出来るよう心掛けております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズム、パターンに注目し、記録を取り、職員間で情報を共有するなど把握に努めています。状態の変化については、特に皆が共有・把握できるよう心掛けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人はもちろん、家族からの意見や要望など個別に聞き取り、必要があれば関係者と話し合います。職員会にて皆で話し合い、それぞれの意見や要望を取り入れたケアプランを立てています。	利用者、家族、医療関係者等からの情報や意見を職員会で検討し、予測される問題や気になる事象の原因等を把握し、個々の利用者に即した介護計画を作成している。計画の見直しは3カ月毎であるが、変化があればその都度行っている。ただし、これまでの生活習慣や総合的な援助方針等の記録が乏しい。	個々の利用者の生活習慣や生活への思い等の情報を整理し、具体的にイメージができる総合的な援助方針を記録するなど、次のステップに向けた取り組みを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケース記録を毎日記録しています。職員間でも情報が共有できるように、出勤時には目を通し、申し送りをして日々の生活に生かしています。介護計画の見直し時には記録を生かし、職員会で意見交換や話し合いをして実践に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて外出・外泊の送迎や、その他家族の要望に応じ、訪問することもあります。家族が受診時に対応できない場合にも職員が対応します。他にも本人や家族からの要望には出来るかぎり対応していきたいと考えています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、職員の同行なしで単独外出される方が数名おります。地域住民の方や、商店、社協、包括支援センター、警察、公共交通機関等にも情報提供し、安全に行動できるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当施設としては、協力医療機関を掲げていますが、これまでの生活の中でのかかりつけ医があれば継続して受診できるように対応しています。同市内の医療機関であれば受診時の対応もしています。	今までのかかりつけ医や希望する医療機関に受診できるよう支援している。通院介助は、市内の医療機関は職員が担当し、市外は家族が行っている。家族が通院介助をする場合は、利用者の日々の記録を事前に渡し、受診結果は、家族と全職員で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設では常勤看護職員はおりませんが、週2回・協力医療機関の松谷病院外来から訪問して頂き、日々の健康管理や助言が頂けるようにしています。また、緊急時には24時間、常に連絡が取れる体制としております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	何らかの理由により入院された場合には医療機関、医師、相談員、リハビリ担当者等と情報交換、連絡をとっています。主に、管理者・ケアマネジャーが連絡調整を取りますが、不在の時は職員誰もが対応出来るようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに関する指針」を作成しており、過去にも1件看取りの事例があります。入居説明時には重度化、終末期の対応についても説明し、その様な場合になった時にも安心して過ごせるようにと考えています。協力医療機関、訪問看護師、家族等と十分に話し合い、方向性を検討しています。	入居時に重度化や終末期の対応について指針に沿って説明し、本人や家族の意向を聴いている。事業所と医療機関や訪問看護師等との連携はとれており、利用者の状況に応じて話し合い、支援できる体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に冷静に判断、行動が取れるようにマニュアルの作成、研修等、法人内勉強会への参加、医師や看護師からもアドバイスを頂き、不定期であります。訓練や検討を行っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は消防署の協力にて年2回行っています。水害、地震、津波等の場合の避難方法の検討なども、地域の方や、行政の方ともいろいろな状態を予測して話し合ったりしています。	地域の津波避難訓練に参加し、避難経路に沿って車で山に上がる訓練を行っている。事業所独自の避難訓練は、火災を想定し消防署の協力を得て行っているが、地域住民の協力は得られていない。非常食等は3日分を目安に備蓄している。	今年度地域の津波避難訓練に参加し、避難経路や避難先等が確定された機会を活かし、運営推進会議を通して事業所独自の防災訓練に地域住民の協力を呼び掛け、地域との協力体制を築くことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格が違う事を常に考え、言葉掛けや対応は日々、気をつけるように心掛けております。	排泄や入浴等、利用者の羞恥心を伴う介護場面では、他者の目や耳に触れないよう配慮している。利用者に対して決め付けた言動は慎み、問いかけて意向を聴くことを徹底し、利用者一人ひとりを尊重することに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や要望などの表現が困難な方にも、根気よく問いかけたりしながら、出来るだけ本人の自己決定を尊重するよう支援していきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活を送る中で、なるべく時間にとらわれず、入居者の皆様のペースで過ごしていただけるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院などがあればこれまでと同様に利用していただいたり、希望の所を利用できるようにしています。また、衣類なども自己決定できるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には、準備や片付けなども手伝っていただいています。食べたい物を聞いたり、地元の物や季節感のあるものを心掛けて献立を決めたりしています。魚をさばき、たたきをつくっていただいたり、ツワやふきの皮を剥いていただいたりもしています。	調理当番の職員は利用者の好みに配慮し、旬の食材を使って毎食4品の副食を作ることに取り組んでいる。利用者と一緒に買い物に出かけ、下ごしらえや食器拭き等を一緒に行っている。また、刺身やタタキの料理は、作るのが得意な利用者に頼み、皆で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取は朝、昼、夜、夜間と全員記録し、チェックしています。ご飯を先に食べてしまわれる方、早食いになりがちの方、おかずをご飯に乗せて食べる方、などそれぞれ個別に声掛けや並べ方などの工夫をして対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者一人ひとりの状態に合わせて、一部介助にて毎食後に口腔ケアを行い、習慣付けております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツ・パットに頼らず、利用量を減らせるように個別で対応しています。個々の排泄パターンを把握し必要に応じて排泄誘導を行っています。特に日中は出来るだけトイレでの排泄を促すために、声掛け等を行っています。	利用者の排泄パターンを把握してトイレでの排泄を支援している。利用者の失禁の時間帯を見極め、事前に誘導することでトイレでの排泄が自立した事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄が自立出来ている方は、毎回は把握出来ていないが、全員の排便確認を記録しています。食物繊維の多い食材を選んだり、水分にも注意し、日常の運動や体操を心掛け、実施しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせますが、誰もが毎日入浴できる体制としています。出来る限り意向を聞き、入浴するかしないか等も本人に決定して頂きます。現在では、利用者どうしで、順番や時間帯なども流れが出来ているようです。	毎日入浴できる体制にしており、利用者の希望に応じて支援している。利用者によって毎日入浴したり、一日おきに入浴するパターンが決まっており、入浴の順番も自然に決まってきたり。入浴を拒む利用者にはさりげなく浴室近くまで行って声掛けし、快適に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は定時に巡視を行い、また必要に応じてその都度対応しています。日中も夜間に差し支えない程度の休息は、自由に各自が摂られています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の内服内容については、調剤薬局等より発行される内服表を確認できるようにしています。受診時に変更のあった場合には、ケース記録や職員の申し送り帳なども活用し、その都度確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、片付け、畑作りや庭の草引きなど日常の役割を持っている方もおられます。また、自由に外出される方で、買い物をしたり、喫茶店でコーヒーを飲む事を楽しみにしている方もおられます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現在単独で自由に外出される方が2名、その他の方は要望があればその都度、職員が同行して外出するようにしています。家族の方々と話し合い、また、地域の方々にも見守り・協力も依頼し、理解と協力を得て、行っております。出来るだけ、希望に添えるよう、職員体制も見ながら対応しています。	単独で外出できる利用者は、地域の協力もあって自由に出かけており、その他の利用者も、好天時には毎日買い物や散歩に出かけている。月1～2回は各種の花見や保育園の行事等に全員で出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が難しくなっている方が多く、ほとんどの方が事務所での管理やご家族の管理となっています。なかでも、昔からよくお金を使っていた方などは、現在でも使う額が大きく、その都度ご家族と連絡を密にし、連絡・相談など行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	数名の方は電話をかけることを希望され、その都度施設の電話で対応しています。1名の方は携帯を準備してもらい所持しています。また、手紙等も自立して行っています。その他の方も、希望があるときには、その都度対応します。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて職員が花を持ってきて生けたり、行事等の写真を飾ったりすることもあります。また、利用者様が散歩途中で摘んだ花を飾ったりもしています。	事業所は宿舎を改造した建物であるが、家庭的な家具を配置し、小さなスペースにも椅子を置いてくつろぎやすい空間にしている。また、玄関脇には、グラジオラスや紫陽花等季節の花を活け、季節感にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは、狭い空間のため、完全に独りになることが難しい状況です。独りになりたい時には、廊下のソファーに移動するか、自室に戻られることとなります。また、食堂に移動することもあります。ホールでは座る場所などがなんとなく決まっている様子で、仲の良い者同士が近くに座り、おしゃべりなどされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人には入居時に説明し、自宅で使っていた家具や家電製品の持ち込みを、特に制限なくお願いしております。ベッドは完備されていますが、希望があればベッドを除けて布団での対応もしています。	馴染みの机や椅子、テレビ、置時計、鏡、家族写真等を持ち込み、利用者それぞれの個性的な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や、階段には手すりを設置していますが、一人一人に対応しているわけではありませんので、歩行時には見守りをし、安全性に努めています。車いすやシルバーカーでの移動には限界がありますが、杖などを使用している方もおられます。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				